

2013年10月10日 全8頁

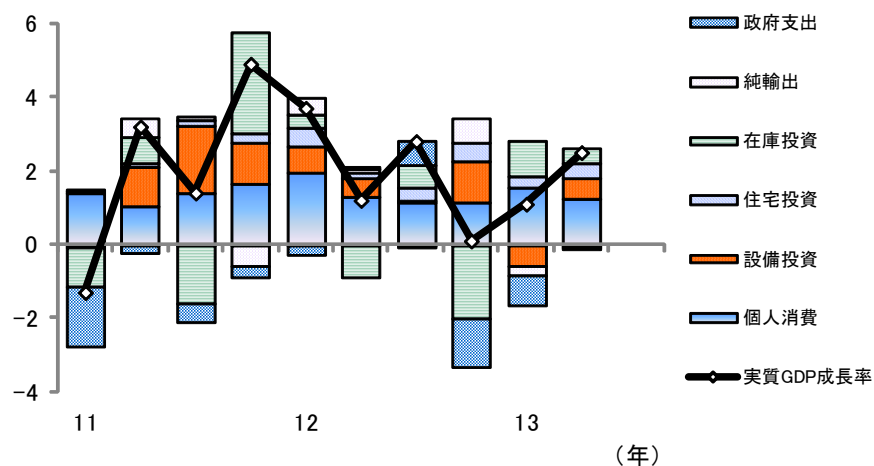
アメリカ経済グラフポケット(2013年10月号)

2013年10月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



(前期比年率、%、%pt)	2011		2012				2013	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	1.4	4.9	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5
個人消費	2.1	2.4	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8
設備投資	16.7	9.5	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7
住宅投資	6.1	12.2	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2
政府支出	-2.5	-1.5	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4
輸出	7.0	2.7	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0
輸入	4.9	5.9	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9
寄与度								
個人消費	1.4	1.7	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2
設備投資	1.8	1.1	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6
住宅投資	0.2	0.3	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4
在庫投資	-1.6	2.7	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4
政府支出	-0.5	-0.3	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1
輸出	0.9	0.4	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0
輸入	-0.8	-1.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1

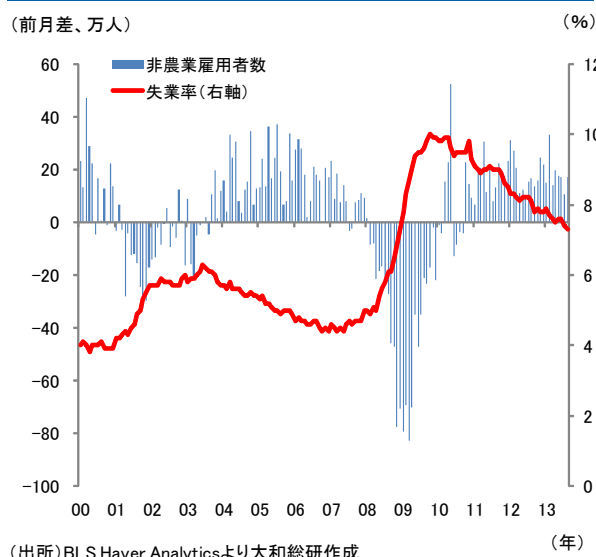
(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

※10月1日からの米国政府機関の閉鎖によって、一部の統計が発表されておられません。前月号と同じ内容もございます。

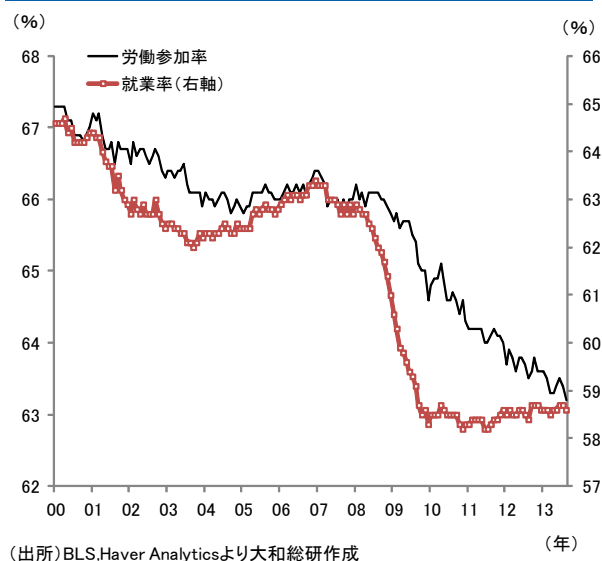
雇用環境¹

- ◆ 8月の失業率は7.3%で、7月から0.1%ポイント低下した。失業率は2008年12月以来の低水準となった。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差16.9万人増で、7月から増加幅が拡大した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は16.0万人増と、4月の21.5万人増に比べ、雇用の改善ペースが鈍化した可能性がある。

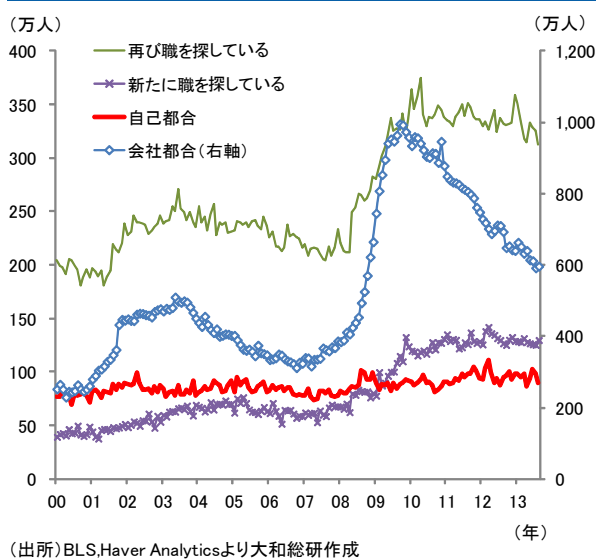
非農業雇用者数と失業率



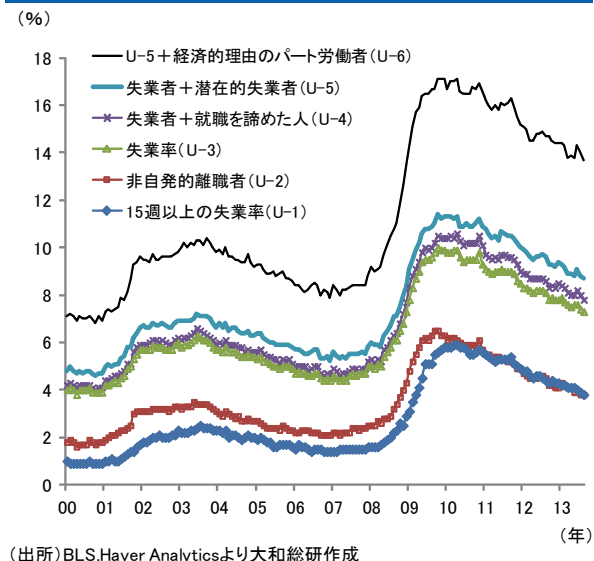
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

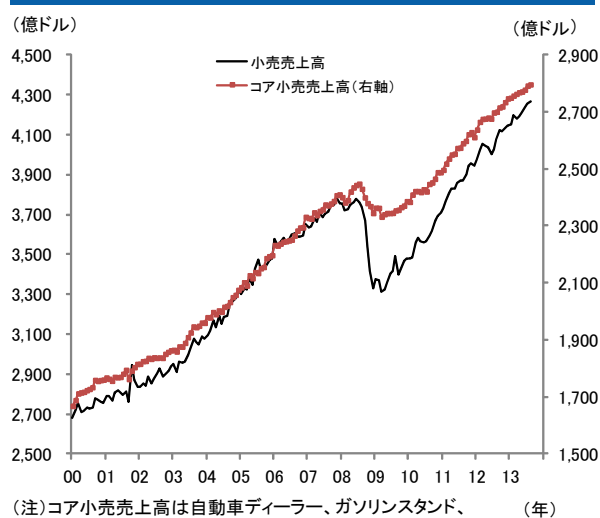


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「雇用の量的改善は鈍化傾向か」(2013年9月9日)
参照: http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130909_007665.html

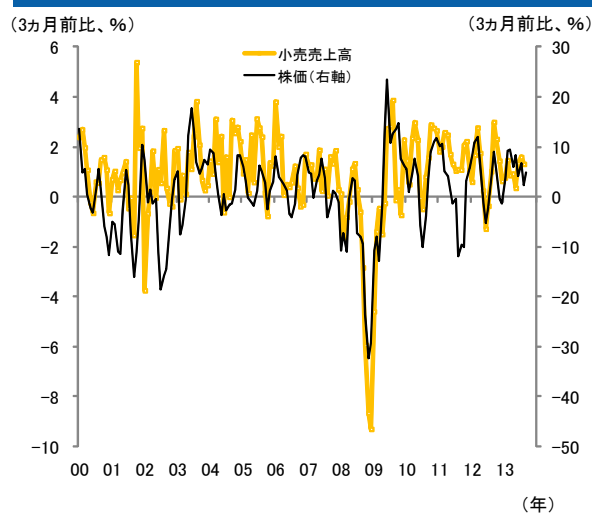
個人消費

- ◆ 8月の個人消費は、小売売上高が前月比0.2%増。5ヵ月連続で増加した。コア小売売上高も同0.2%増で、2012年7月以来連続で増加している。
- ◆ ロイター/ミシガン大消費者センチメントは2ヵ月連続で低下し、4月以来の低水準となった。
- ◆ 9月の自動車販売台数は、2007年9月以来約6年ぶりの高水準を記録した前月から大幅に減少。前月比5.1%減で、年率換算では1,528万台であった。祭日であるレーバーデーの週末が、8月と分散したために減少幅が大きかったものの、2012年11月以降1,500万台以上を維持。

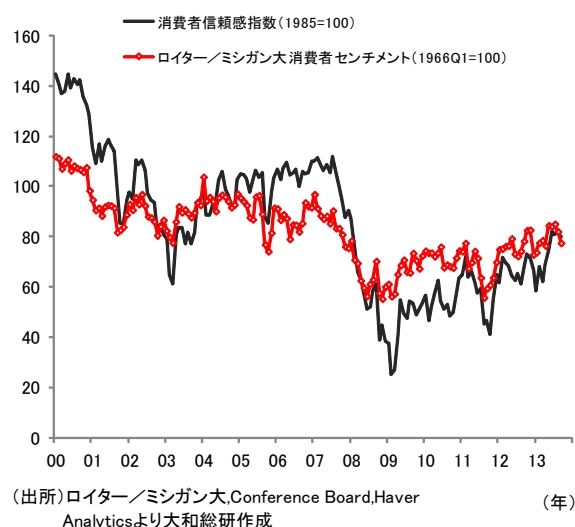
小売売上高の推移



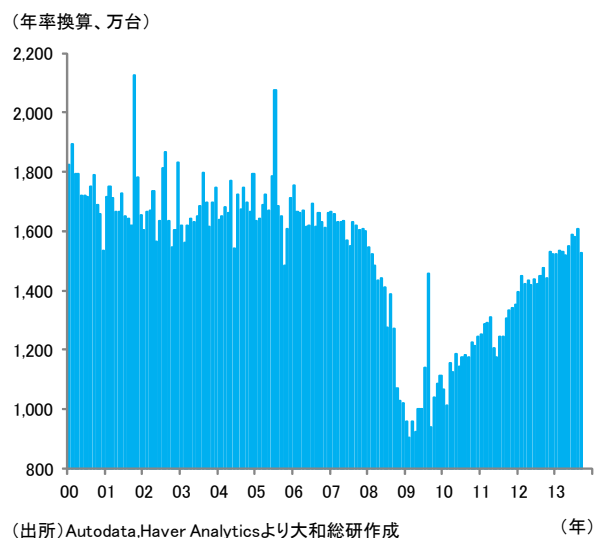
消費と株価



消費者マインド



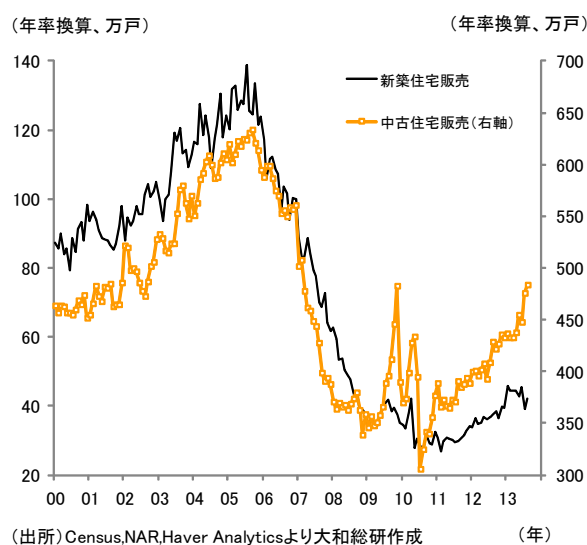
自動車販売台数



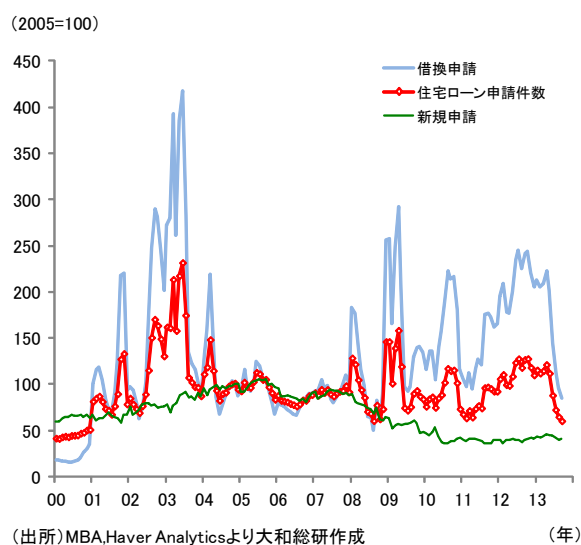
住宅市場

- ◆ 8月の新築着工は、前月比0.9%増の年率換算89.1万戸であった。
- ◆ 8月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比1.7%増の年率換算484.0万戸であった。2007年2月以来の高水準となった。
- ◆ 8月の新築住宅販売は前月比7.9%増と大幅に増加し、年率換算42.1万戸であった。前月から増加に転じたものの、今年2番目に低い水準となった。
- ◆ 7月の住宅価格は引き続き上昇。しかし、ケースシラー住宅価格指数（20都市）の上昇ペースは鈍化傾向にある。

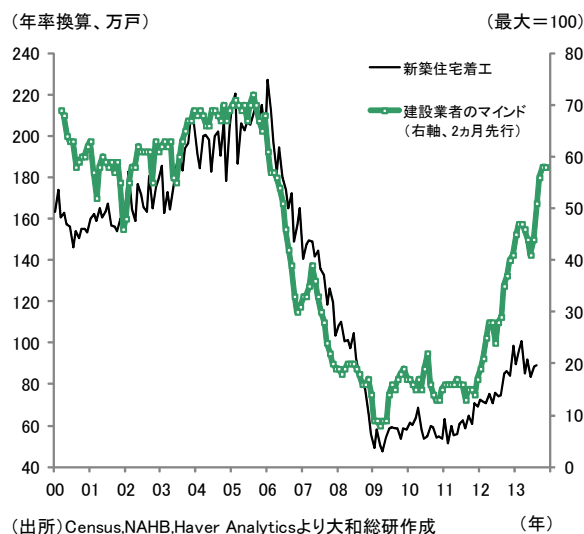
住宅販売（一戸建て）



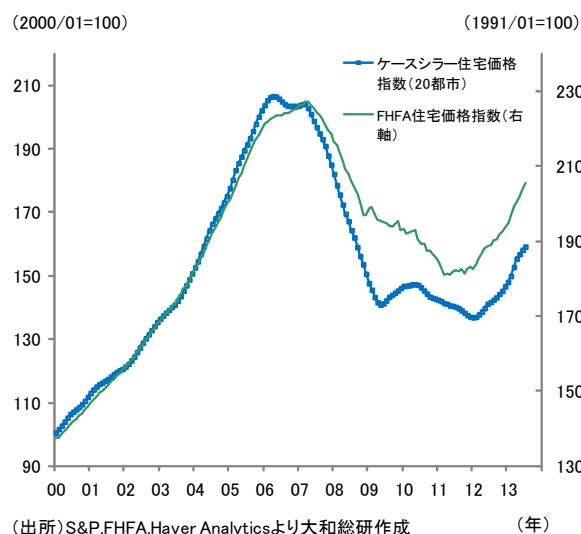
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者のマインド



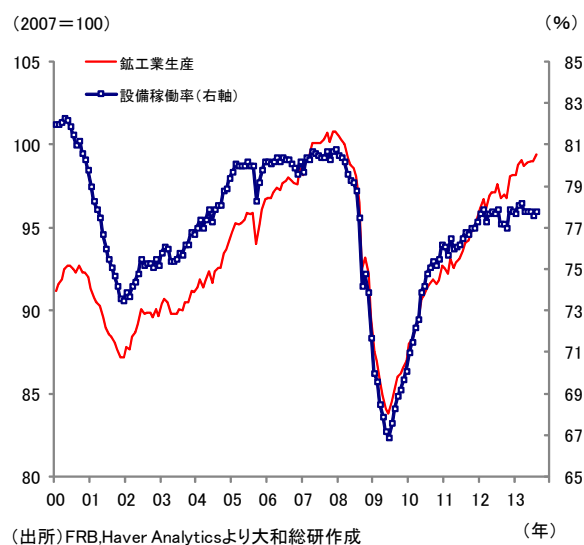
住宅価格



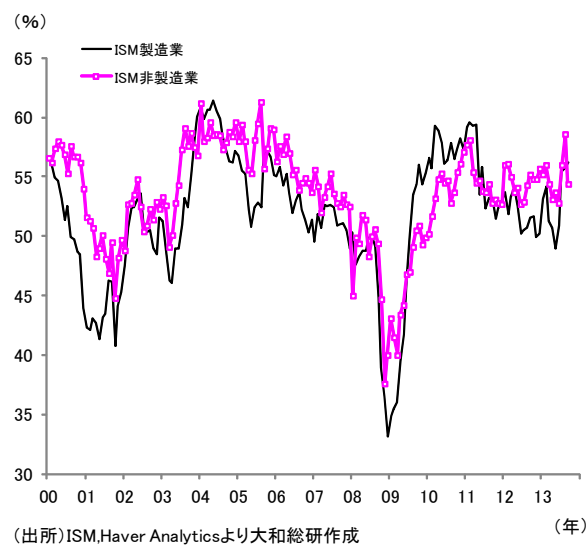
企業動向

- ◆ 8月の鉱工業生産指数は前月比0.4%増。製造業も同0.7%増となった。
- ◆ 8月の国防・航空機を除く資本財受注は前月比1.5%増。前月の減少から増加に転じた。
- ◆ 9月のISM製造業指数は前月比0.5%ポイント上昇。2011年4月以来の最高水準となった。非製造業指数は同4.2%ポイント低下したが、景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回った。

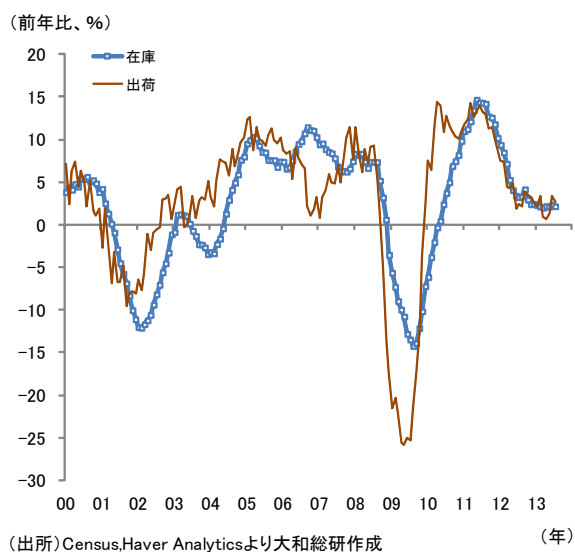
鉱工業生産と設備稼働率



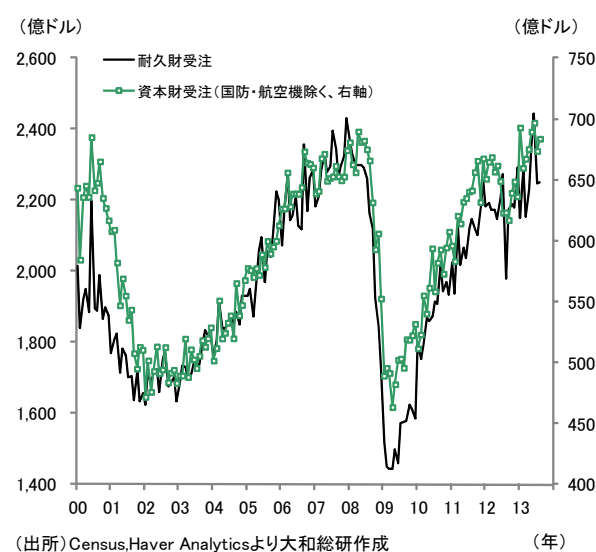
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



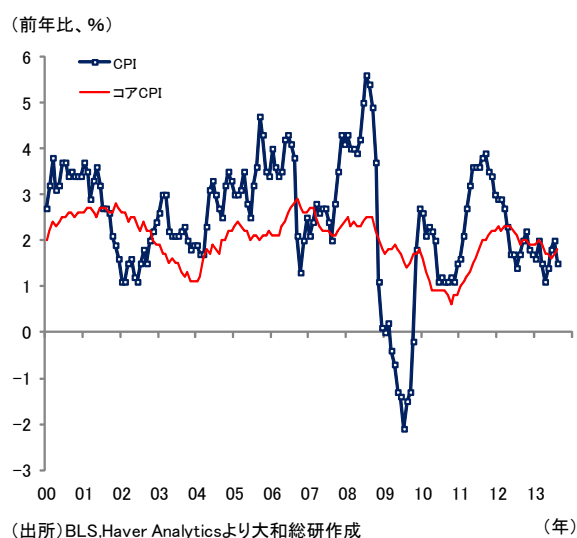
耐久財受注



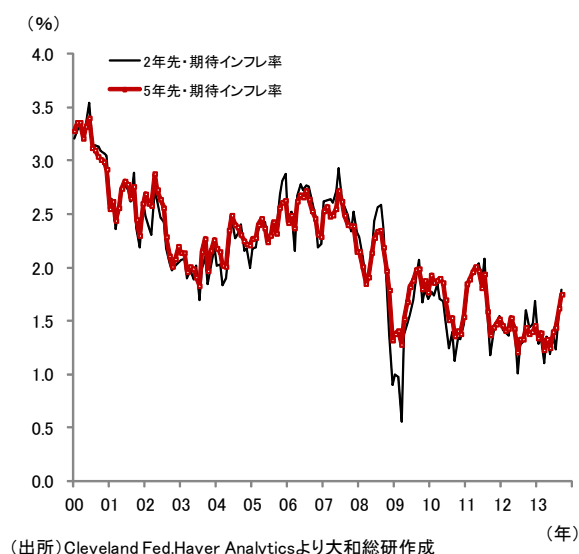
物価動向

- ◆ 8月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.5%増で、コアCPIは同1.8%増であった。FRBの長期目標である2%を下回った。
- ◆ 9月末のWTI原油先物価格は102.33ドル/バレルと、8月末の107.65ドル/バレルから低下した。

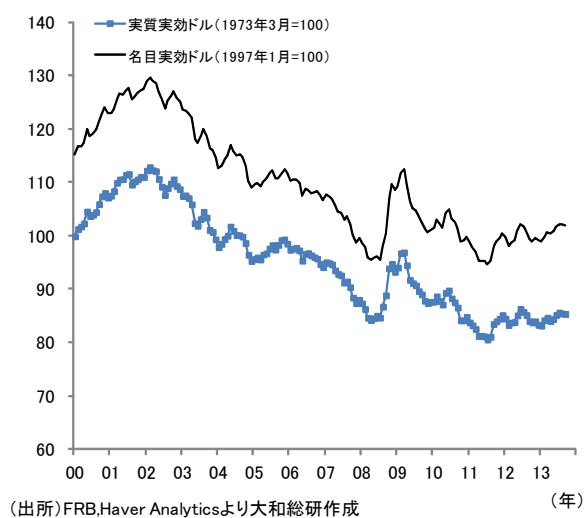
消費者物価指数



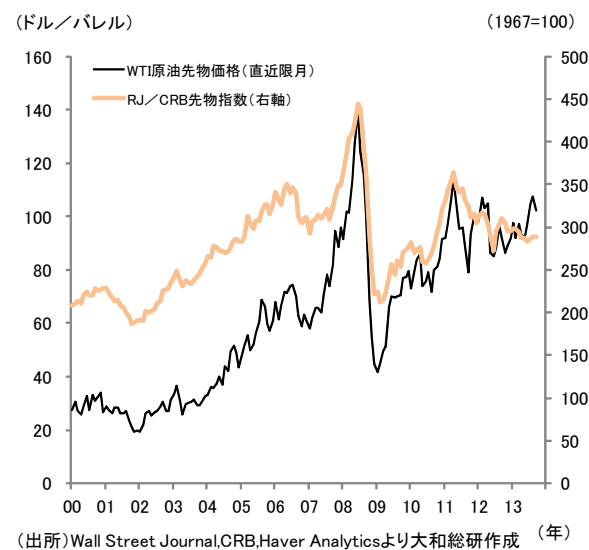
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



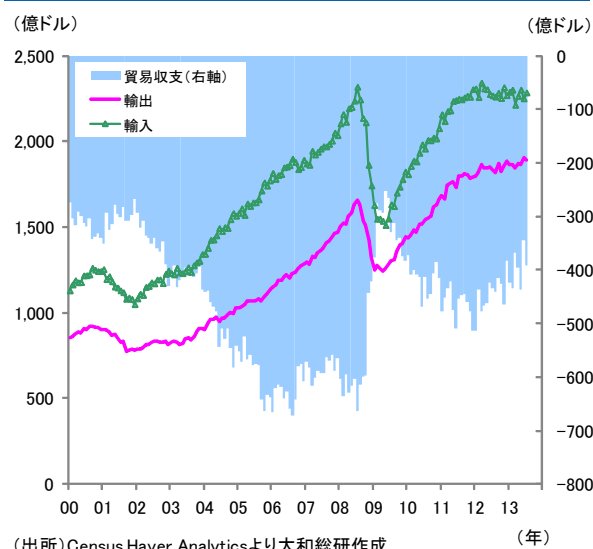
コモディティ価格



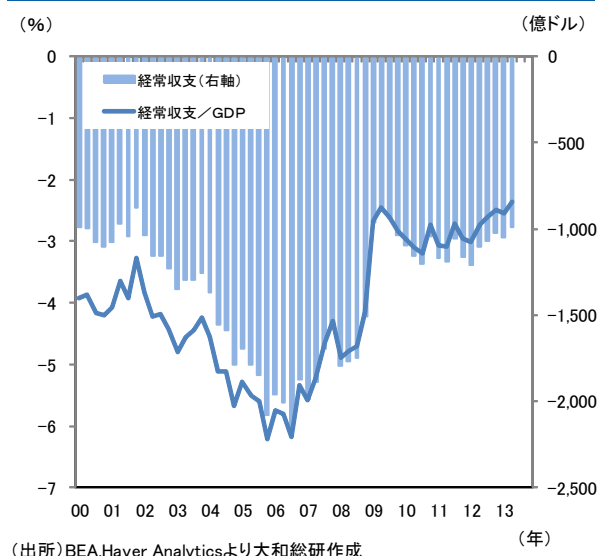
輸出入・経常収支

- ◆ 7月の貿易収支（財・サービス）は、輸入の増加により赤字額が拡大し、391億ドルの赤字となった。
- ◆ 輸出は前月比0.6%減の1,894億ドルで、輸入は同1.6%増の2,286億ドルであった。
- ◆ 地域別（財）では、日本向けの輸出が前年比で減少したが、欧州と中国向けの輸出が前年比増となった。輸入は、日本からの輸入が前年比マイナスであったが、欧州と中国からの輸入が前年比プラスであった。

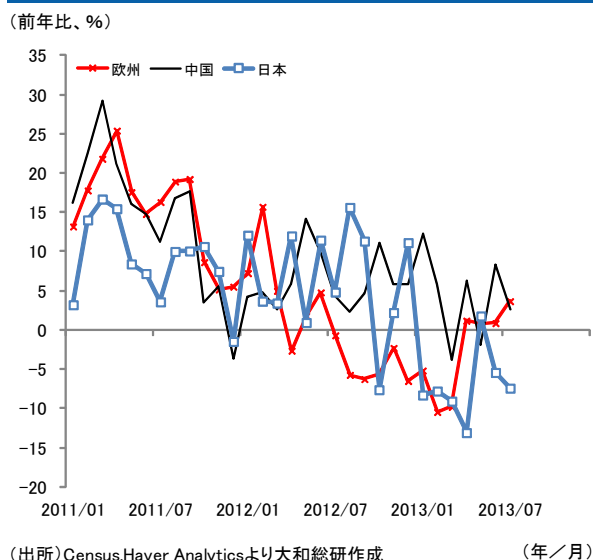
貿易収支動向



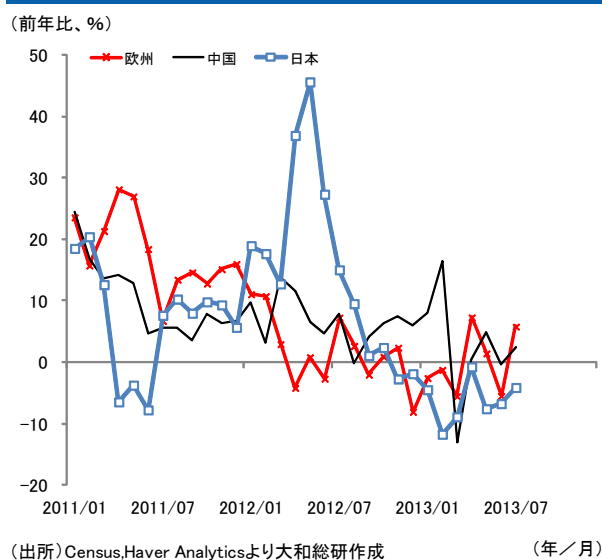
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



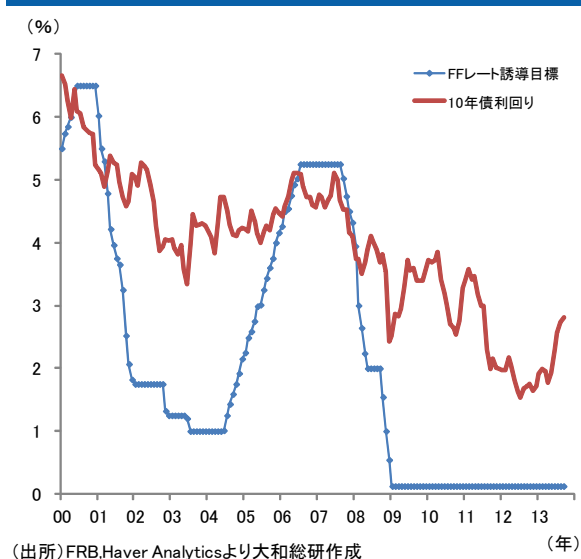
国・地域別輸入動向



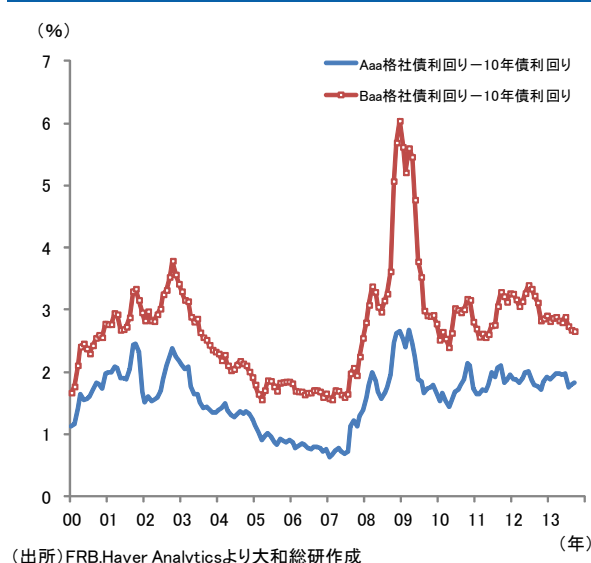
金融・財政

- ◆ 長期金利（10年債利回り）は上昇が続いている。9月平均値は2.81%となり、2011年7月以来の高水準であった。
- ◆ 9月のFOMCにおいて、月額850億ドルの資産を買い入れるQE3（量的緩和第3弾）の継続が発表された。QE3を受け、FRBの資産残高は増加が続き、直近の10月2日の週平均では約3兆7,800億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支は、歳入の増加により赤字幅の縮小が続いている。

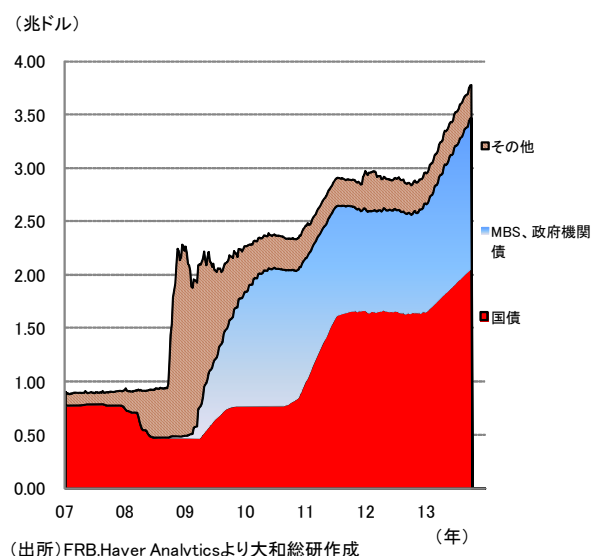
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

